

## 第5学年1組 国語科学習指導案

平成24年5月29日（火）第3校時

授業者 教諭

### 1 単元名 声に出して楽しもう「今も昔も」

### 2 単元の目標

- ・古典の文章を楽しみながら音読し、言葉の響きやリズムを味わうことができる。  
(関・意・態、読む)
- ・時代による言葉の違いに気付く、文章の内容の大体を知ることができる。  
(知・理・技)
- ・昔の人のものの見方や感じ方について知ることができる。  
(知・理・技)

### 3 単元について

「声に出して楽しもう」は、学習指導要領の「伝統的な言語文化に関する事項」の系列に対応したものである。「1・2年生では、多くの昔話や神話・伝承を聞いて楽しむ。また3年生以降の4年間ではいろいろな古典や文語文と出会い、それらを音読したり暗唱したりすることを通して日本文化にさらに親しみ、知識と愛着を深める。」という構成になっている。ただ、本単元の教材として扱う作品は、「竹取物語」「枕草子」「平家物語」といった、これまでは中学校で初めて触れていた作品である。提示されているのが作品の冒頭の部分だけとはいえ、ほとんどの児童にとっては、あまり目にしたことのない言葉の世界である。そこで、文語の調子に親しみながら何度も声に出して読んだり、現代語訳や解説文を参考にして古代の人々のものの見方・考え方を感じ取ったりして、古典の学習に興味・関心をもてるようになることを期待したい。

### 4 児童について

児童は、5年生になって「春から夏へ」という『季節の言葉』のページで、文語で書かれた詩や俳句、短歌の世界に触れた。初めのうちは読み方の難しさもあり、学習に抵抗を示す児童が多かった。しかし、繰り返し声に出して読んだり、そこに読まれている季節や様子を子どもたちなりに想像してみんなで話し合ったりする中で、読み取っていく楽しさを味わえるようになった。また季語を取り入れた俳句作りにも楽しんで取り組むなど、古文の表現の仕方、昔の人々のものの見方・考え方に少しずつ興味・関心をもつようになってきている。

### 5 指導について

本時では、児童が小さい頃「かぐや姫」として親しんでいる物語の古典「竹取物語」を中心に引き上げたい。「竹取物語」というと難しそうな物語のように感じるが、同じお話を昔話にしたものが「かぐや姫」であることを知ると、古典文学をより身近に感じられるようになると思われる。また、普段耳にすることのないような言葉も、何度も声に出すことで身近なものに感じられるようになるので、一人読み、ペア読み、交互読みなどいろいろな音読を体験させてリズムで覚えるようにさせたい。

また、昔話「かぐや姫」を使って簡単な読み聞かせをして大体の内容を伝えるが、古典の言葉のもつそれぞれの意味、作者の描こうとしている風景や感情を子どもたちなりに読み解く過程を大事にしたい。その際、自分の思いを書いて自信をもって発表をしたり隣の人と意見交換をしたりしてみんなで話し合わせる場を十分にもち、昔の話であっても今の自分たちとつながる部分もあることに気付かせたい。

6 授業計画（2時間配当）

第1時 「竹取物語」の始まりの部分を読み味わう。（1時間 本時）

第2時 「枕草子」「平家物語」の始まりの部分を読み味わう。（1時間）

7 本時の目標

竹取物語の大体を読み取り、言葉の響きを味わいながら音読することを通し、古典に親しみをもつことができる。

8 準備物 竹取物語の場面絵（テレビ、掲示用絵）、文章の拡大版、CD、ワークシート

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
○教材文「竹取物語」を聞き、聞き取った言葉を挙げる。 ・山、竹、光る、あやしがり、うつくしう…	・どんな言葉が聞こえてくるか、どんな内容の話か想像しながら聞くように促す。
○「竹取物語」の図版から見て取れることを挙げる。 ・昔の絵 ・お姫様がいる ・豪華なようす	・「竹取物語」の図版から見て取れることを発表させる。
○竹取物語の冒頭部分を読み、感想を発表する。 ・難しい言葉がある。 ・読みにくい。 ・知っている言葉もある。	・教科書はまだ見ず、黒板に添付した文章（拡大したもの）をゆっくり丁寧に読ませる。
○昔話の題名当てをする。 ・竹を取るということからかぐや姫だと思ふ。 ・筒、光る竹、三寸という言葉からかぐや姫だと思ふ。	・誰が出てくるのか、あたりの様子はどうか、誰がどんなことをしているのか等を考えさせ、題名当てにチャレンジさせる。 ☆語感や言葉の使い方に関心をもっている。
○現代語訳と原文を比べながら、言葉の意味を確かめる。 ・「翁」はおじいさんという意味。 ・「よろづ」というのは、いろいろという意味。 ・「あやし」というのは、不思議だという意味。	（話し合い・発表…関・意・態） ・現代語訳と原文が載っているワークシートに、今と昔の言葉の使い方の違いに気付かせるために、分からない言葉とその意味を昔話の中から見つけて書き込ませる。
○音読をする。	☆時代による言葉の違いに気付いている。 （ワークシート・発表…知・理・技）
○気付いたことを書く。	・一人読み、二人読み、交互読みなどいろいろな音読の仕方を体験させる。
	☆言葉の響きやリズムをつかんで声に出したり、感想をもったりしている。（音読・発表…読む）

10 授業の観点

竹取物語の話の内容を理解するために、話し合いの場で読み取りを深めていったことは有効であったか。